

ぴっと・いん



特集・きもの美人おすすめ

おいしいお店

ほっとくつろげるお店

きもの講師であり、ボラ
ンティア団体「バルチータ
2001」を主宰する池田
乃子さんが、お住まいのあ
る兵庫区を中心に、おすす
めのお店をご紹介します。

出発前に、毎回着物に合
せて髪をセットしてもら
う美容室「サロンド・テル」

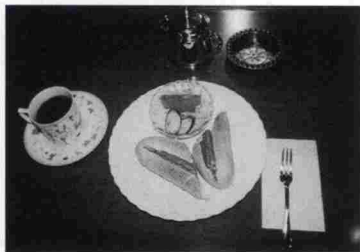
へ。オーナーの城平直子さ
んが美しく髪を結ってくれ
る。カット2500円、
パーマ6500円。(会
078-576-3716)



「サロンドテル」の明るい女性たちと

カフェ「ニーマ」

JR兵庫駅山側にあるカ
フェ「ニーマ」は、カリッ
としたパンと、イタリアン
ドレッシングのサラダがお
いしいんです」と池田さん
がお気に入りのモーニング



池田さんがいつもいただくモーニングセット



カフェ「ニーマ」の看板娘・孝子さんの作るシフォンケーキが評判

串かつ「五十一」

こちらも池田さんが毎晩
のように立ち寄っているお
店。JR兵庫駅山側の大通
りを北へ、3本めの通りを
東へ入ったところにある串
かつのお店。赤い看板が目
印。店長の岡田知さんは大
のオリックスファンで、店
名はイチロー選手の背番号
「51」から。オリックスの
若手選手などもよく飲みに
来るとか。阪神ファンやオ
リックスファンの常連客も
多く、毎晩野球の話で盛り
上っているとか。

串かつは全品1000円。
明太子やげそ串が人気。お
まかせコースは10串に小鉢
がついて1000円。串を
揚げる油に氣を使っている
ので、たくさん食べても胸焼け
がせず、お年寄りでもどん
どん食べられるのが人気の秘
訣だ。生ビール380円、
チューハイ280円。「そ
れに岡田さんご夫妻の人柄



店を訪れた野球選手のサイン色紙やサインボールがずらり

■カフェ ニーマ
神戸市兵庫区羽坂通4-2-10
☎078-579-0703
8:30~18:00
日曜休



「JUKE BOX」のオーナーの藪田さん、スタッフと一緒に

ン・デーで、専属のプロギタリスト、ジャズギタリストも出演。ロック、オールディーズなど幅広いジャンルのライブやセッションが行なわれ、三線などの和楽器とのセッションも多い。カウンターとテーブル席があり、ビール500円、カクテル600円。チャージ500円。

■串かつ 五十一
神戸市兵庫区羽坂通4-2-18
蓬莱ビル1階
☎078-578-8751
17...00〜23...00



ピアノの腕前を披露する池田さん

がいいので、毎晩通って来る常連さんが多いんですよ。私はいつもわがままメニューの一品料理を作ってもらいます」と、池田さん。



若い岡田さんご夫妻がきりもりするお店「五十一」

ライブ&カクテルバー「JUKE BOX」

場所は変わってJR神戸駅高架沿い。居酒屋「竜馬」の下にあるライブハウス&バー「JUKE BOX」。池田さんはよくここで、ほろ酔い気分ピアノを披露するとか。オーナーの藪田英二さんもギタリスト。水曜・木曜はジャズセッション。

現在、土曜・日曜に出演するオールディーズのバンド、女性のみのバンド、女性ボーカリストを募集している。ハコ貸し（ノルマあり）もOK。くわしくはホームページで。

■JUKE BOX
神戸市中央区元町高架通7丁目
☎078-351-3700
<http://jukebox-power.co/>

ホルモン・串焼「心や」

その隣りの「心や」は、トタン張りレトロな串焼き屋さん。雑誌等でも有名で、某アパレルメーカーの社長やミュージシャンなど、隠れ家的にお気軽に入り込んでいる人も多くいるらしい。オーナーのゆうさんと池田さんはよく飲みに行くお友達。

材料は純神戸肉を使用、シャカナタなし、すべて朝びきの新鮮なものばかり。ホルモン串焼き1200円。おすすめはもつ煮込み（450円）、レバさし（500円）。

「ご紹介したお店は、おいしくて、ほんと癒される



レトロな食堂風の「心や」。オーナーのゆうさん

■心や
神戸市中央区元町高架通7丁目
☎078-360-5564
17...30〜
とりえず無休

池田乃子さんからお知らせ

劇団ASミュージカル
第19回公演
10月25日（出） 14時開演
第1部「大正ロマン歌絵巻」
第2部「額田女王
―紫の匂える女―」
場所／芦屋ルナホール
料金／前売2000円
当日2500円
問合せ／

☎0797-32-1984
☎0798-74-2505
(阿部)
(下平)

●ライブハウス・スケジュール

■チキンジョージ

TEL.078-392-0146

9/7(日) 新川博

10(水) 「空と海と風と」 浅野祥之(g)他

13(土) THE ELEPHANT KAS HIMASHI

18(木) THE MODS

20(土) CRAZY KEN BAND

21(日) MARINO

25(木) ミラクルヤング/フラワーカンパニース

26(金) GEORGIE PIE

■ピアジュリアン

TEL.078-391-8081

9/6(土) 辻本恵子(p)

7(日) 武田有賀(p)

9(火) 重水田紀(vo)片桐えみ(p)

10(水) 廣澤敦子(vo)多久江里子(p)

11(木) 龍智子(p)近藤美香(p)

12(金) 藤沢優子(p)

14(日) 中鼻佐和(vn)上田裕子(p)

15(月) ホルントリオ二宮あや

16(火) ジャズ原田紀子 中山良一 松田忠信

17(水) 久保田裕美(fi)植田浩徳(p)

18(木) 金澤佳代子(p)近藤美香(p)

19(金) ゆうきじゅん

20(土) 奥野香織(p)

21(日) 稲葉綾(p)

22(月) 小笠原薫(vn)山内尚子(p)

23(火) 神田裕史(vo)片桐えみ(p)

24(水) 日野俊介(voc)

25(木) 梶栗真紀(vn)梶栗絵里(vn)

26(金) 山本朋子(hp)武村美穂子(fi)

27(土) 高山郁子(オーボエ)本吉優子(vn)田中靖子(p)

28(日) 大塚裕紀子(fi)鈴木華重子(p)

29(月) 多久江里子(p)

30(火) 小野朝子(vo)大迫めぐみ(p)

■Holly's

TEL.078-251-5147

9/6(土) 雨宮千晶(vo)向原千草(sax)久保田肇(g)前田洋二(b)

11(木) 河野美紀(vo)高橋麗奈(p)ほか

12(金) 長井美恵子(p)ほか

13(土) ゴスペル "Joy3"

18(木) 藤村麻紀(vo)西田誠(g) 笹井克彦(b)逸見勝(d)

19(金) HAWAIIANハレクラニB OYS

20(土) 大石麻生子(p)ほか

25(木) 大内玲子(p)ほか

27(土) 大川YOKO(vo)世古昌義(p)小出恭正(b)

■萬屋宗兵衛

TEL.078-332-1963

9/7(日) マキ凜花(vo)小田千津子(key)

13(土) Leeast(WORLD MUSI C)

16(火) 内藤大輔(ts・as)白井久美子(ss)時安吉宏(b)家

谷望美(d)

23(火) 吉本章紘サクストリオ

24(水) 大和(JAZZ・Original)

山口大弐(as)他

25(木) 向原千草Quartet(JAZZ)

原大力(d)他

26(金) 宮下博行Original Live

27(土) esprit(フュージョン)梶田勇(sax)他

29(月) 村井ゆかり(vo)安本貴宏(g)神前信秀(b)

10/4(土) SO LONG(JAZZ) 吉野尚子(vo)他

5(日) マキ凜花(vo)石飛幸子(p)

6(月) 特別企画ライブ「関東・関西・沖縄が神戸に大集合」高橋裕(g)おちあいさとこ(vo)目原史絵(箏)

江原啓太(p)阿波連本恵(唄・三線)新垣優子(唄・三線)李浩麗(vo)

■SONE

TEL.078-221-2055

9/6(土) 北莊桂子+トリオ

7(日) ロイヤル・フラッシュ・ジャズバンド

8(月) 大越理加+トリオ

9(火) 橋本裕吉ターカルテット

10(水) ボンビ柿本+トリオ

11(火) 大塚善章+トリオ+1

12(金) 北莊桂子+トリオ

13(土) 荒井雅代+トリオ

14(日) 鍋島直視カルテット+1

15(月) 大越理加+トリオ

16(火) キャンディー・浅田+トリオ

17(水) 荒井雅代+トリオ

18(木) 古谷充クワルテット

19(金) 辛島寿美子+トリオ

20(土) ベティ・戦富+トリオ

21(日) 中島徹ブラジリアンクインテット

22(月) 北莊桂子+トリオ

23(火) 荒井雅代+トリオ

24(水) 石宮美和ひきがたり+ギタートリオ

25(木) 長谷川元伸カルテット+1

26(金) 荒井雅代+トリオ

27(土) 大越理加+トリオ

28(日) 橋本裕吉タートリオ+1

29(月) 北莊桂子+トリオ

30(火) 日高典雄カルテット

※11/16(日) 北村英治ライブ予約受付中

■WACA 2

TEL.078-333-6768

9/6(土) MASH・GIMMICK

13(土) 「情熱の鼓動」フランメンコ・ナイト

14(日) BLANK DISK

15(月) 「天西・二人旅」天野SHO・西野やすし

17(水) 池田定男Acoustic Jazz Trio

18(木) MonkeyDead

20(土) ヒアカム六甲ユニット

21(日) BLIND DATE

26(金) KABURAGI(sax)Sasaki(g)UNIT

27(土) ROMEL AMADO & THE RED DOGS

28(日) 光玄(アーバン・フォーク・ブルース)

愛読者チケット プレゼント

★市民映画劇場10月例会「ヘヴン」(10/17・18) ペア3組
★大和松蔭舞の会(10/2 神戸文化ホール) 5名
★映画館招待券

●パルシネマしんこうえん(湊川公園) 2名

9/4・15「アバウト・ジュミット」
「過去のない男」▽9/16
24「運命の女」▽ブラッド・ウィーク▽9/25・10/6「モンテ・クリスト伯」
「銀幕のメモワール」
●ペレネシネマ(西区) ペア5組

上映中▽10/3「踊る大捜査線2」
▽9/6・10/3「ウルトラマン」
▽9/12・10/3「アンパンマン」
▽10/4・11/7「陰陽師2」
●シネマザイク(ハーバランド) 2名

9/20「トゥームレイダー2」
▽9/中旬「リーグ・オブ・レジェンド」▽10/4「陰陽師2」
●西灘劇場(灘区水道筋) ペア5組

9/6・19「チベットの女」
「ハッピー・ヒューネラル」▽9/20・10/3「ライ麦畑をさがして」
「ふたりのトスカニーナ」

※応募方法

ハガキかフакシミリで①希望するチケット(劇場名)②住所・氏名③電話番号④今月号の感想を書いて〒650-0001 神戸市中央区下山手通2-13-3 連創ビル4階(FAKX 078-33312795)「月刊神戸子チケットプレゼント」係までお送り下さい。

ポケットジャーナル



★アートな灯りに包まれて 花あかりフェスタ開催

神戸ファッションタウン協議会創立20周年記念事業でもある花あかりフェスタが、神戸ポートアイランド市民広場において、9月22(明)、23日(火・祝)に催される。

ンサート、美味しいグルメに舌つづみの花あかりオーブンカフェなど、会場は「見て、食べて、楽しめる」多彩なプログラムがいっぱい。「キッズ」をテーマにしたフリーマーケットも開催される。

心地良い秋風を頬に感じ、光の花畑で癒しのひとときをどうぞ。入場は無料。

★Come and Enjoy!
神戸グローバルチャリティーフェスティバル

今年もまた10月18日(出)、19日(日)10時～16時、神戸外国クラブにおいて、第5回神戸グローバルチャリティーフェスティバルが開催される。

このチャリティーの目的は、日本、アジア、アフリカの恵まれない子供たちの学校建設、教育プロジェクト資金、奨学金、施設への援助をし、子供たちの明るい未来のために基金を集めること。子供たちのコスチュームパレードに始まり、世界平和の祈り、屋台コーナー、BBQ、手作りケーキ、ビンゴに抽選会、フリーマーケットなど楽しいイベントで盛り上げる。売上金はすべて恵まれない子供たちの教育のために寄付されるので、国際文化交流と世界の子供たちの幸せな明日のために、ぜひお出かけを。入場は無料。



思い思いのコスチュームで
盛り上げる子供たち

■神戸外国クラブ(トアロロ北北つきあたり) TEL 078・241・2588
www.kobeclub.org

★東井義雄賞『いのちの言葉』募集

兵庫県但東町では、いのちの教育を探究し続けた日本を代表する教育者「東井

誕生日 ありがとう 運動



誕生日フェスタへ

実行委員会を重ねて概要が決まり、いま内容を細かく組んでいます。本人さんの実行委員は意欲いっぱい、本人決議で社会にアピールすることも決まりました。誘い合ってたくさんの方参加してください。

◇日時 11月2日(日)9時半受付 10時～16時

◇会場 神戸市生涯学習支援センター 中央区吾妻通

◇プログラム

①「はなす」本人グループの意見発表とオンブズマンとして学生サポーターグループの発表です。

②「つくる」本人講師を中心に小物を作りましょう。

③「うたう・おどる」バンド演奏・車椅子社交ダンスもあり、みんなで歌ったりおどったり、楽しくもありません。

その他各グループからの展示即売もたくさんあります。

誕生日ありがとう運動本部 〒650・8790 神戸市中央区中町通4・2・11村上ビルB1
TEL&FAX 078・360・1257



全国から集まった美しい「花絵」にあかりが灯り、幻想的に浮かびあがる1000個を超える「花あかり」が会場全体をオシャレにライトアップ。手作り服を着たキッズモデルによる「ママの手作り子供服コレクション」や、花あかりコ

手作りのお洋服で
ちびっ子モデルもご満悦

義雄」の生誕地として、平成15年度から東井義雄賞「いのちの言葉」募集事業を実施している。現代の子供たちに伝えたいことは、自分の人生を変えたことば、心のささえになったことばなど、学校の先生に限らず、野球チームの監督やピアノの先生、お医者さんなどから受けたあなたの心に残る素晴らしい言葉「私をささえてくださったあの先生のあの一言」を募集中。60字以内の「ことば」と、その状況を400字以内にまとめ応募しよう。東井義雄賞5編(3万円と記念品)、秀

作10編(1万円)、特別賞10編(記念品)、佳作75編(記念品)並びに賞状が授与される。締切は9月30日(火)まで。

■千683兵庫県出石郡但東町出合150但東町教育委員会内 東井義雄賞『いのちの言葉』募集係

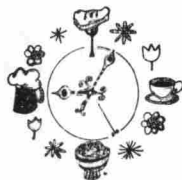
■FAX 0796-1541015 (但東町教育委員会)

■Eメール kinenkan@toi.kinenkan.jp

★南京町の可愛い宝石店 JEWEL Fleur

南京南路にあるJEWEL

花時計



★地藏盆と花火

「今日は朝から、地藏盆を二十軒まわって、メリケン地蔵さんが最後ですのや」と、大竜寺の井上仁成(に成)住職。総勢六人で夕暮れるメリケン波止場の、第十七回目を迎えた「2003メリケン地藏盆」の法要をしていたのだ。

「特に今年は、高野山で修業した声のいい若い僧が帰って来ましたんでな。」と(成)配慮。読経の男性コーラスのハーモニイは、迷える魂を慰めて波の間に浮かぶ、精霊流しの灯が、美しい。

どーんと花火が上がった。ドンパチパチ、その華麗さは夏の終りを告げるかのよう。八月二十四日、日曜日の夜九時頃。ポートアイランドで開かれた「サザンオールスターズ」の、二日間で十四万人を集めたコンサートでのフィナーレを飾る花火だった。凄しい人気は、永年のトップを走るミュージシャンたちの実績だと思ふが、見事なイベ

L Fleurは明るくて神戸らしい上品なお店。若い女性に人気の高い「ピーチエ」のジュエリーをはじめ、品質の良いパールやカラーストーンの製品も豊富。気軽にに入れるお店なので、お気に入りジュエリーを探してみてはいかが。

■JEWEL Fleur
営業時間・10時～20時
TEL 078・392・5351



本物の良さは
ぜひフルールで

ントを無事に修める手際のよさ。メリケン波止場から歩いて会場に向うベアたちもいて、地藏盆の準備に追われるスタッフは「船を出して海上で演奏を聞きたかったね」と笑いつた。

メリケン地蔵の小さな催しでさえ、準備や段取りの手間ヒマが大変なのに、十四万人をさばくスタッフの企画力と実行力は凄いのと思う。

メリケン地蔵盆は毎年の催しだけれど「サザンオールスターズ」も、ポートアイランドから見る神戸夜景の美しさに酔ったことだろう。また来年も花火を打ち上げてほしいもの。

(M・K)

KOBE POST

★みなと銀行代表取締役青尾長司氏が退任されました。

★関西電力株式会社神戸支店副支店長の片岡哲夫氏が退任され財団法人関西電気保安協会理事総務部長に、新たな副支店長は平尾正利氏が就任。

★神戸税関長二宮洋二氏が、国土交通省大臣官房審議官(北海道局担当)に、新任は一万井誠治氏が着任。

★須田京介氏の「小説楠公三代記」出版を祝う会を楠公会館にて開催。9月19日(金)午後6時～8時、会費は1万円。

★ホテルイスト東京21の専務取締役金子順一氏が退任され、ホテルオークラ福岡の取締役社長に就任。

★華道壮風会松井末風氏が来年6月ニューヨークチェルシーにて2回目の「いけ花展」開催決定。

★B.W神戸クラブでは、11月29日(土)13時～16時クリスタルビル6F県立神戸生活文化センターで、玉岡あおるさんの講演「天涯の船にみる女性の一生」、パネリスカッション「女性と仕事」を開く。講演会終了後、懇親会も予定。

★生田の森では9月13日(土)午後6時より「観月祭」生田神社拝殿・観月の宴「生田神社会館大ホール」が催される。初穂料9千円。9月20日(土)午後6時から「生田神社新能「狂言 仏師」能「天鼓」が境内特設舞台にて、観能料は前売2千円、当日2千5百円。

★奇神建設株式会社創業者・会長壽神美好氏のご葬儀が7月23日に取り行なわれました。心よりご冥福をお祈りいたします。

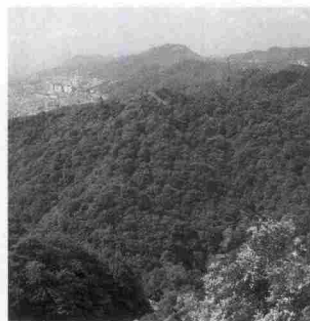
六甲山トレッキングツアー企画

コーディネーターと
一緒に六甲山を歩きま
せんか

六甲を見逃すな！！



四季折々の六甲山を感じながら、
山の歩き方、山の楽しみ方を体
験できます。



第2回 六甲山トレッキングツアー

◆日 時：10月22日(水)

◆参加人数：15名程

◆コース：徳川道

◆参加費：3,000円

(交通費、食費は個人負担)

下山後、コーディネーターを囲んでの茶話会
を企画します(参加費に含まれます)

◆締 切：10月10日

◎申込方法：住所・氏名・年齢・性別・
電話番号を事務局まで、
FAX、E-Mailにてお知らせください。

◎毎月1回(年12回)

◎参加人数：15名程(随時募集)

服装、装備のご相談は、イカワスポーツへ
神戸市中央区下山手通3-3-1 ウェルストンビル1F
TEL.078-331-3390 FAX.078-331-8087

協力：(株) アシックス・イカワスポーツ

神戸には、街の中に山があります。このような恵まれた環境
は、日本中、世界中を見渡しても他にはありません。この素晴
しい環境を利用して、いろいろなのぼり方をして六甲山の自然
を肌で感じましょう。

重廣恒夫氏と、井川勲氏のコーディネートで、初心者で
も安全な登山が楽しめます。六甲山では、四季を通して多くの
ことを学ぶ事が出来ます。少人数ですので、きめ細やかな指導
が受けられます。また、経験を重ねてゆくといろいろな可能性
が広がっていきます。「六甲山」から「エベレスト」トレッキ
ングも夢ではありません。

コーディネーターと一緒に、山の登り方(技術)、山の楽し
み方(四季折々の山の顔)を体験しながら。なおかつ神戸らし
さを味わうことができるツアーです。

コーディネーター

重廣 恒夫氏

(アシックス・
アウトドアマイスター)

73年エベレスト南西壁の世界最高点
(当時)へ到達。以来、K2に日本
人として初登頂、チョモランマ、ナ
ムチャバルワ等を未踏ルートで登頂
等数々の記録を持つ。96年には日本
百名山を123日で連続踏破した。

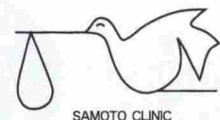
井川 勲氏

(イカワスポーツ店主)

神戸生まれ。
関西学院大学卒業後、山とスキーの
専門店「イカワスポーツ」に入社。
1988年六甲学院山岳会より南米パ
タゴニア遠征隊に参加、世界初の氷
床横断に成功。
1998年より「ふるさと兵庫50山」
を企画案内。

月刊神戸っ子

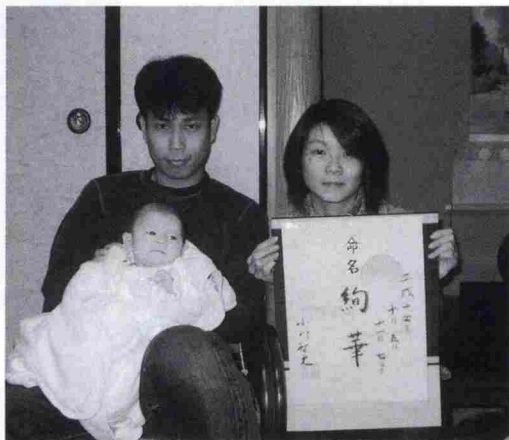
事務局 TEL.078-331-2246 FAX.078-331-2795
E-Mail kobecco@crux.ocn.ne.jp



SAMOTO CLINIC

ママといっしょに

佐本
産科



あかちゃん：小川絢華ちゃん
(平成14年10月5日生まれ)

ババ：智史さん
ママ：真由美さん

「明るく、やさしく、元気に大きくなあれ！ババ、ママ、絢華、3人いっしょに成長していこうね」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中通4-1-15
TEL：078-575-1024 (病室TEL：078-577-7034)

市バス上沢4 停南スグ
●駐車場完備●

えと日占い《九月の運氣》

子	ねずみ月(12/8~1/5)生まれ 運氣は平穩な状態ではあるがもう一步と言うところで伸び悩みの感がある。焦らず徐々に運で。急げば逆に願望は叶い難し。投機的な事は厳禁。	丑
寅	うし月(1/6~2/3)生まれ この月はやたらと規則にとらわれる事となる。何事も自然の流れを尊重し逆らわず慎重に取り組むことが肝要。前進のための岐路を定めるとき。	卯
辰	とら月(2/4~3/5)生まれ 運氣は低迷状態から脱しきれず粗野な態度が争論を招き易い。他人の甘言や煽動に乗り思わぬ蠢動に掛かぬよう注意も肝要。建築移転期は凶。	巳
巳	うさぎ月(3/6~4/4)生まれ 平穩で心の静まるような運氣の月。諸事積極的に進んでもよし。金銭上の出入りも順調で業務上の改革新規事業への投入など有利に活用できる。	午
午	たつ月(4/5~5/5)生まれ 運氣は未だ完全には回復せず低迷状態と言える。何事も確実性に欠け不如意のことも多くなる。緊要な積極策も時には必要となる。臨機応変に。	未
未	へび月(5/6~6/5)生まれ 運氣はやや持ち直したように思えるが低迷状態はもうしばらく続きそう。諦めずに現状の権利に努めよう。必ず解決の道は開ける。新規のことは要注意。	申
申	うま月(6/6~7/7)生まれ 当初から陰険な空気が漂う油断のならぬ月である。すべてに迷いや妄想が生じやすく冷静な対応が肝要。	酉
酉	ひつじ月(7/8~8/7)生まれ 運氣は非常に穏やかに進んでいる。進退ともに問題はない。金銭上の信用もあり物事は順調にはかどる。しかし強引な行動は不利益な結果を招く。	戌
戌	さる月(8/8~9/7)生まれ 運氣は上昇し万事挽回に向かい好調に運んでいる。ただ凶神が含んでいるため進退ともに慎重な行動が必要。事故の巻き添えに注意が必要なり。	亥
亥	とら月(9/8~10/8)生まれ 運氣は平穩な状態となってきている。そのため行動が慎重に流されやすくなってしまう。心の機軸は意外な災害をも呼びかかない。心機一転が肝要。	
	いぬ月(10/9~11/7)生まれ 運氣は回復しつつあり従来からのことに重点を置いて行動せよ。先祖のことは実行の時期ではない。まだ沈滞の傾向がみられる。油断は厳禁。	
	いのしし月(11/8~12/7)生まれ 運氣は少しずつ進行していくが怠惰な癖で取柄を逃がすことにもなる。緊急不救の心構えをもって事にあたることが肝要。火難盗難に注意。	

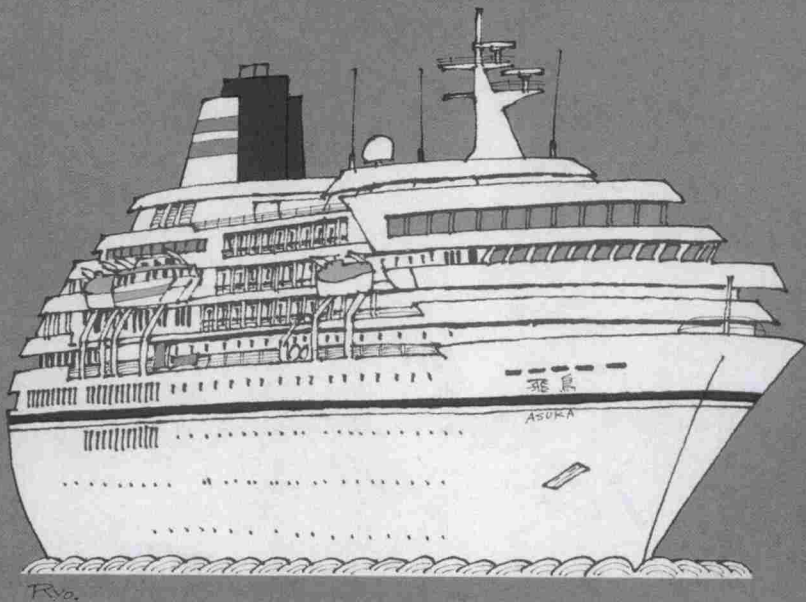
人間関係・心の問題・家族・職場・恋愛など
占師 わらおう 予約 078-321-6865

海船港

魅力あるウォーターフロントづくり その②

文・上川庄二郎

絵・柳原良平



飛鳥

今回は、古くから海・船・港によって支えられてきた国際港湾都市神戸の旗印が、今揺らぎ始めていることを紹介した。今回から、その国際港湾都市神戸をどのようにして再生したらよいのか、再生できるのか、を考えてみよう。

二、神戸をもっと賑わいのある“まち”に！

“まち”には、賑わいがなければならない。賑わいのある“まち”は活気があり、魅力がある。“まち”は、都市ではなく、都会でなければならない（堺屋太一）。それでは、どうしたら神戸をもっと賑わいのある“まち”＝都会にできるのか！ それには、産業経済・観光・コンベンションそれに交流など多方面から考えてみる必要がある。折角神戸空港を整備しても、神戸のまちに魅力がなければ“人”も“もの”もやっこない。空港は“まちづくり”の手段に過ぎない。空港さえあれば、黙っていても“人”や“もの”がやってくる、なんて甘いものでないことをもっと自覚する必要がある。

ところで、日本に外国からの観光入込客が少ない、そんな中でお且つ神戸への入込みが少ないことはすでに述べた。一方、国内の観光客の入込みは？と見てみると、やはりおかしい。

神戸市観光交流課の行った聞き取り調査によると、神戸のイメージでは、港が30・2%、異国情緒が28・7%、お洒落なファッションが15・6%、都市像としては、観光都市が39・3%、国際港湾都市が29・5%、ファッション都市が20・5%といった具合で、北海道、沖縄、京都に次いで行ってみたい“まち”だ、という。しかし、具体的にに行ってみたいところとなると、有馬温泉、六甲・摩耶、明石海峡大橋、ポートアイランドといったところが挙げられて、港、異国情緒、ファッションといったイメージや都市像とは結びつかない。神戸港は、所詮貨物港のイメージなのだろうか。どうもこの聞き取り調査と客観的なデータの間に齟齬がありそうに思えて仕方がない。

その上、神戸に来る人は、圧倒的に日帰りが多く

(78・9%)、かつ近間(近畿圏)が多い(85・3%)。これを裏付けるのが、新幹線の乗客数である。《そのぞみ》が停車するようになった新神戸で90000人/日、これに比し、広島2万人/日、静岡1万8000人/日、横浜2万3000人/日(いずれも2002年4月、JR西日本)と新神戸は何とも寂しい。この数字は、近間の日帰り客の多いことを裏付ける数字以外の何ものでもない。

この神戸をもっと賑わいのある「まち」にするには、どうすればいいのだろう。行き着くところは、もっと集客都市づくりに力を入れよう、ということになるのかもしれない。しかし、現在のように少子・高齢化の進む中で経済不況、しかも「もの」を造らない国になっては、どの都市もどの「まち」も「まちおこし」といえば集客・観光が拠りどころとなる。すでに集客都市づくりを目指しての過当競争時代に突入しているといってもよい。

観光客を一人誘致すれば、テレビで5台、スポーツシューズ100足分輸出した効果があるなどといわれている。これほどの経済効果が期待されることから、21世紀は観光業が基幹産業になるなどといわれることも十分納得できる。

この激しい都市間競争の中で神戸が勝ち抜いてゆくには、他の都市に真似のできないものを編み出さねばならない。どこでも考えられ真似のできるようなものでは金太郎飴になってしまい、単なる過当競争にはまり込んでしまうだけである。「これまでになく新しい都市の魅力を創り出す『集客都市』橋爪伸也」こここそ必須要件なのだ。

このような考えの下に何があるか、少し整理してみよう。①神戸ならではの独自のカラーを持ち合わせているか、②他の追随を許さない美しく魅力的なポイントがあるか、③神戸ならではの「DO」の観光のできるポイントがあるか、少なくともこれが最低限の必要条件である。つまり、他の都市と比べてどんな差別化ができるのか、がすべてである。

こうみてくると、神戸ならではの観光資源としては、

①旧居留地など魅力的なダウンタウンに密着した神戸港のウオータフロントがまず挙げられよう。次いで、②青い海と対照的な六甲山の緑、③それにお洒落なファッションブランドショップが立ち並ぶ異国情緒豊かな旧居留地一帯や、④異人館の「まち」北野町界隈、といったところが浮かび上がってくる。

それでは今日まで、何故このウオータフロントに目を向けてこなかったのか、実はそうではない。目を向けなかった訳ではないが、高度成長期の神戸港は、物流港として世界に冠たる港であり、神戸経済の70%を支えてきた、言わば神戸市民にとっては生活上の大黒柱だった。そんな訳で、このウオータフロントは市民に開放するような場所にはできなかったのである。それでも、南米への移民華やかなりし頃の神戸港からは、あるぜんちな丸、ぶらじの丸といった客船が、大勢の移民を乗せて出航していったのを脳裏に留めている市民も多いはず。

このように、世界の港町として栄えてきた神戸は、物流を通じて世界や国内各地との交流が盛んだった。しかし、工場の海外移転が進み、日本は、「もの」を造らない国になってしまった現在、物流港としての神戸港の地位は下がり(何も神戸港だけではない。日本の港が全部だ)、港湾施設の遊休化が加速度的に進みだした。当然のことながら、世界はおろか、国内各地からとの交流も先細りしている。このことは、第一講で述べたように、神戸への入込み客がいろんな面から見て少ない、という数字からも読み取れる。

今こそ、このウオータフロントという大きな産業遺産を、有効に生かす手段を考えるべきときが来たのである。そのためには、積極的に市民に開放してゆかなくてはならない。次講で、この辺りを考えてゆこう。



■かみかわ しやうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。

盟友馬琴とのケンカ始末記

中右 瑛

ケンカ好きで、ケンカ早い北斎センセイは、人生を変えざるほどのケンカを、生涯、三度もしかした。その一つが、後世に面白く伝わるアノ流行作家・曲亭馬琴との大ケンカの一幕である。

氣位高く、強情、天邪鬼の奇癖強く、人を喰ったセンセイ。一方、武士のプライド高く、謹厳にして人嫌い、交際嫌いの曲者・馬琴（一七六七―一八四八）。

この強烈な個性の二人の交友は波乱にみちドラマチックである。

作家とさし絵画家としての絶妙コンビで世に賞賛されたにもかかわらず、ちょっとしたハズミで大げんかをやらかし、遂に絶交した。不可解なケンカ仲間でもあったのだ。

二人がまだ若き時代、馬琴がときの流行洒落本作家の山東京伝の弟子となり、そのついで大出版社・蔦屋で手代をしていたころ、蔦屋にさいさい売り込みに訪れていた浮世絵修業の北斎センセイ。共に無名時代からの良き友であった。互いに競争心に燃え、共に刺激しあい、出世街道を邁進する二人のライバル心が、ケンカの背景に如実に現われている。

当時の蔦屋にはスターの卵が山ほど居た。すでに大成した山東京伝、うだつのあがらぬ喜多川歌麿がめきめき売り出しはじめ、経歴不詳の天才児・東洲斎写楽が忽然と現われ、食客となっていた十返舎一九などなど。勝川春朗と名乗っていた駆け出しの北斎センセイ

曲亭馬琴肖像



も蔦屋の庇護を受けていた一人だった。

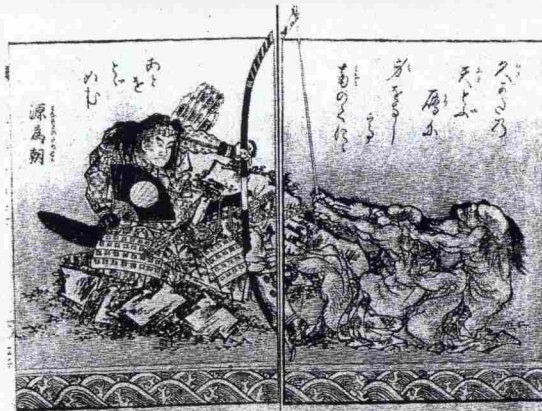
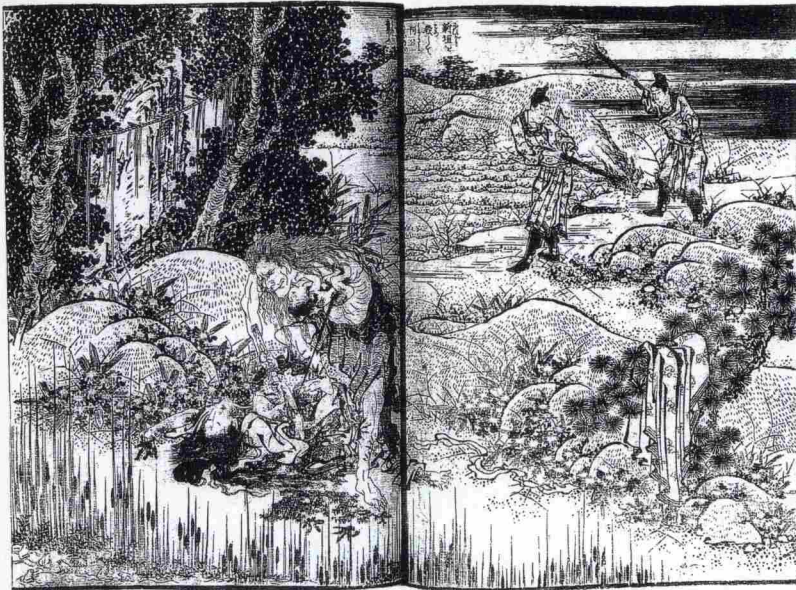
馬琴は蔦屋の番頭にまで出世した二十七歳のとき、師匠の京伝や蔦屋のすすめで、飯田町中坂下の下駄屋の伊勢屋に入婿して、著作堂と号し、著述に専念しはじめた。

馬琴と初めてコンビを組んだのは、蔦屋時代の黄表紙『花春風道中』（寛政四年・一七九二）。つづいて八年後の読本『小説比翼文』（文化元年・一八〇四）。

文化四年、『椿説弓張月』でのコンビは注目された。これは鎮西八郎為朝外伝大河小説で、波乱万丈、奇っ怪な化け物が登場する破天荒な冒険ストーリーの面白さに加え、ドラマチックな画面構成、残酷怪異の北斎センセイのさし絵に、読者は酔いしれ、大人気となった。二人の絶妙コンビは江戸中に鳴りひびいたという。この期、馬琴とのコンビ以外に、センセイが他の作家と組んだのは、柳亭種彦著『近世怪談・霜夜星』（文化五年）など百五十数種にも達する。

『椿説弓張月』は馬琴の出世作であり、北斎さし絵の評価も最高潮に達していた。この二人の絶妙コンビはそのあと四、五年つづいたのだが、コンビは突然に解消された。原因は何か？

二人は芸術論で大論争となった！
相方の人気に互いに嫉妬し合った！



↑『鎮西八郎為朝外伝 権説弓張月 前編』

← 曲亭馬琴著『鎮西八郎為朝外伝 権説弓張月』
残酷な北斎さし絵

馬琴は、小説が面白いからだ!と自認。

一方、北斎センセイは、さし絵の人氣が先行した!と自負。互いにゆずらなかつた。

と、さまざまに取りざたされたのだった。

中国の翻訳本『絵本水滸傳』（角丸屋版）のさし絵を北斎センセイが担当することになって、翻訳者が馬琴であったことからセンセイが悶着をつけ、高井蘭山に変更された。センセイの馬琴ぎらいのあらわれである。

センセイのさし絵の残酷表現は、人氣絶頂なれど私生活は乱れ、神経を病み、自暴自棄になった北斎センセイの気のすさみのあらわれともいう。

などなどの噂は乱れ飛んだが、その真相はナゾである。

その後の文化十二年、馬琴読本『皿皿郷談』（木蘭堂）でコンヒは復活したかに見えた。がしかし、これとて絶交がつづく二人の世間体を氣にした版元が、二人の仲直りを世間に知らしめようとした企画であった、ともいう。以後、馬琴は次々に発表するが、コンヒ復活はなかった。

馬琴累生の名作『南総里見八犬伝』（文化十一年より）では、ピンチヒッターとして北斎の娘婿・柳川重信がさし絵に起用された。娘婿なればこそその指名だった。重信は期待によくぞこたえた。

馬琴とセンセイの仲は、二人は血氣盛んなころ、四ヶ月も馬琴宅にセンセイが家族のこともかえりみず居つくこともあったくらい仲良かった。が、二人の盟友は遂ぞ仲直りすることはなかった。

■中右 瑛（なかう・えい）

抽象画家。浮世絵・夢二エッセイスト。一九三四年生まれ、神戸市在住。行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書多数

■みだら夜話／第八回

■だったんき
韃靼忌

あさぎ またら

浅黄斑〈作家〉

絵・犬童 徹

いんどろ

とおる

前回、三宮でみつけた「おたあ大明神」のことを書きましたが、その後ばたと忙しく、まだ続報を書く材料は集まっておりません。今しばらくお待ちください。でも、忙しい忙しいと言いつつ、つい遊びに出かけてしまうのが、小生なのであります。

つい先日は神戸ハーバーランドの花火大会で、「神戸っ子」が縁で知り合った蘭子さんのマンションから、眼前、手に取るように見物できると聞きおよび、明石は魚秀の鯛の浜焼きに、大善の焼き穴子と一升瓶をぶら下げて、いそいそ出かけていきました。いやあ、すばらしかったですね。クーラーの効いた部屋から、空中に舞う花火を見下ろしながら盃を傾けるといのは、まことにゴージャスです。来年も、きつと行くぞ！

またつい先日は、奈良まで行ってまいりました。興福寺近くに菊水楼という老舗旅館がありまして、ここの料理が、また素晴らしいのです。特に夏場

は鮎がよく、その虜となった知人たちと会食の約束をしたのはいいのですが、あとで気づくと見事にダブルブッキングをしましておりました。幸いもう一つの大阪女性文芸賞の受賞パーティは、終了後に奈良へ駆けつければ、どうにか間に合いますと分かり、胸なでおろした次第です。

当日は神戸のナヒール文学賞でも受賞式があったようですが、大阪女性文芸賞のほうは今が二十周年、さらに長らく選考委員をつとめてこられた河野多恵子さんと秋山駿さんが、今回で委員を代わられると聞けば、何が何でも出席しないわけにはいきません。詩人の杉山平一さんも変わらずお元氣、芥川賞作家の高城修三さんも意氣軒昂、和氣藹々のうちに宴は進んでいきましたが、時間はだんだん押せ押せになって、小生のスピーチの番がこないうちに、タイムリミットがすぎてしまいました。そこでサントリーミステリー大賞作家の高嶋哲夫さんに、小生の分のスピーチも託して、



一路奈良へ、奈良へ。何しろ吉野川の鮎が待っております。食い物のためには、義理まで欠いてしまうのが小生なのであります。

その甲斐あって、菊水楼の料理長が披露してくれた鮎の見事なこと。朝の三時から出かけて釣り上げてきたという鮎は、大鉢の中でも縄張り闘争をしてはね回り、テーブルに水しぶきをばらまいています。眼前には荒池。奈良の銘酒、春鹿の冷酒で心も口も軽くなり、拙著新刊の「神戸・真夏の雪祭り殺人事件」の宣伝ついでに、次は「奈良・荒池殺人事件」を書こう、などと口走る始末。談論風発、ついには「公の常識は、民の非常識」という話に及びます。きっかけは、外国産牛肉の関税率アップでした。

まあ、これほど馬鹿な話もないのです。農水省の役人の発想では、前年に比べて牛肉の輸入量が一定量以上に増えたとき、国内業者の保護のため、自動的に関税を引き上げると決まっているというのですが、ご存じの通り、前年は例のBSE騒ぎで牛肉離れが起こり、輸入量が極端に下がったのです。つまりは輸入量が増えたといっても、まだ前々年度の量にも及ばない。こんな簡単な理屈が、お役人には分からない。不思議な話です。

話は、ほんと飛んじゃうようですが、小生は、ふと、安西冬衛のことを考えておりました。三題噺ではありませんが、季節は夏、そして奈良、大阪でたくさんさんの詩人に会ったこと。そこにお役人の不思議な発想の話が重なって、古い記憶を呼び起こしたのでありましようか。

安西冬衛は、主に戦前に活躍した詩人で「てふてふが一匹韃靼海峡を渡っていった」という短詩が有名です。ちなみに、小生が昔属していた「海峡」という同人誌の名付け親でもありました。奈良市に生まれ、堺中学を出たあと大連で短詩活動を続け、昭和九年に帰国したのちは、堺市の職員となり、昭和四十年の八月二十四日に没しました。

太宰治の桜桃忌、梶井基次郎の檸檬忌などのように、著名な文人の命日は歳時記に収められていますが、安西冬衛を慕う人々によって、八月二十四日は韃靼忌と名付けられて、堺市の図書館で集会が開かれるようになりました。小生も若い頃にしかけたことがあります。あれは二十年ばかり前のことだと思いますが、突然「韃靼忌」というのがいけないということになりました。市の行事に「忌」という言葉を使うのは好ましくない、とお役人が言い出したのがきっかけらしく、なんとその年から「韃靼忌」は「安西冬衛文庫記念講演会」と名称が改まってしまった。なんともあはらしい話ですが、今はどうなっているんでしょう。

ペンネームに蝶の名をつけるくらい蝶が好きだった小生は、もちろん「てふてふが一匹……」の詩も大好きで、真夏の一夜、折々韃靼忌を思い出し、このロマネスクな詩の情景を心に思い浮かべたものでした。



■浅黄斑（あさぎ まだら）推理作家。一九四六年神戸市生まれ。西神ニュータウンに在住。一九九二年小説推理新人賞、一九九五年日本文芸家クラブ大賞を受賞。日本文芸家協会、日本推理作家協会などに所属するとともに、日本文芸家クラブ関西支部長。「きょうも風さえ吹きます」(「ちよんがれ西鶴」)「櫻島殺人海流」「トカラ北上殺人前線」など著書多数。

■連載エッセー／コーヒーカップの耳 ⑭

バスガイド（上）

出石アカル

絵・菅原 洸人



奥二重の切れ長、少し吊り気味の鋭い目で、カ

ウンター越しにわたしをはたと睨み据える。負け

てならじと、こちらでも睨み返す。どちらが先に目

をそらすか、まるでにらめっこ。しかし頬をふく

らませた彼女の顔に敵意の表情は全くなく、やが

て笑顔に。前歯が少し出ていてかわいくさえある。

前田幸美。鹿児島県出身、21歳、身長一六八㎝。

スレンダーなプロポーション。髪を少し染めては

いるが、そんなにケバくはなく、色が白くて透明

感のある子である。

睨まれたのは、彼女曰く「ア・ハッピービュー

ティフル、幸美」をわたしが間違えて、ミユキと

呼んでしまったから。

職業、バスガイド。わたしの店には珍しい若い

娘さんだ。

「よく喋る、よく笑う、よく食べる、よく飲む、

よくねる、そしてよく喋る、これユキミの健康法」

と言っているのけながら、ほんとによく喋る。ヤッペー、

プチギレ、マッジ、フツチャケ、スッゲ、ムカツクなどなど、若者言葉を随所に織り込みながらのマシンガントーク。見事なものである。わたしは呆気にとられて笑っているばかり。

面白い子である。だけどただ面白いはかりの子ではない。時には身の上話を明るくしてくれる。

小学校三年の時に母親が急死したのだと。それ以来父親は酒びたりになって、お祖母さんに世話になりながら、兄が父親がわりで大きくなったのだと。

高校の卒業間近、教師に「わたし就職したい」と言ったら、「えっ、ほんとに!」とびっくりされて、その場ですぐに父親に「ユキミが仕事すると言ってます」と電話されたと言う。父親は、この子は仕事なんかせずに、遊んで暮らして、早くに「できちゃった結婚」とかする子だと観念していたらしい。高校時代は何度も謹慎処分を受けたのだと。

「家におったら、キミ婆（お祖母さん）が『学校は?』て聞くから、『今、工事中』とか言ってごまかしたりしてた。そやから、学校から毎日入る電話に、キミ婆が出ないように、鳴ったらあわててわたしが取るようにしてた。そやけどそのうち面倒臭くなって非通知にやってん。ほんなら先生、お父んの職場にかけよってややこしなつて。先生に『電話直ったから、お願いやからお父んの職場にはかけんといて』て頼んだり大変やった」

ちよつとワルだったと言う。

「お父んによく言われた。『親の顔をつぶすな。やっぱり母親のない子は、と言われる。俺は職場で端っこの方を歩いてる』て」

そんな彼女だから、神戸に出てバスガイドの仕事をしたと言った時、先生も親も驚いたらしい。

「よくお父んとぶつかってんけど、高二の時、『お父んが死んでお母さんが生きてた方が良かった』てゆうてしもてん。ゆうてから、ヤッバー思たけど、その時はすぐに謝られへんかった。それがずーっと胸の奥に残ってて、気になってんけど、神戸に出て来る前に、『あの時はごめん』て、やっと謝ってん。そしたらお父んもそのこと覚えて、あれは辛かった、と言うから『そやけどお父んもフツチャケ悪かったよなあ』てまたゆうてしもた」

早口の彼女も、この時ばかりは少ししんみりと。「いよいよ神戸に出て来る時に、キミ婆とお父んに手紙を書いた。口でゆうたら、ついタメクチになつてしまうから。いつも反抗的なことゆうてたけど、ほんまは『ありがとう』て思ててんで、ほんで直接よう手渡さんから、後で読んでくれるように置いて出て来てん。そしたら、神戸に来てから、電話がかかって来て、キミ婆は、お金を置いて行ってくれたと思った、てゆうねん。そやけど泣いとおった。ほんでお父んは、遺書やと思った。これも涙声やった」

つづく

いずし・あかる 43年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会会員。詩集「コーヒーカープの耳」（編集工房ノア刊）にて、2002年度第31回ブルーメール賞文学部門受賞。

■新連載小説／⑧

神戸はしけの女

岡本真穂

絵・新家保夫

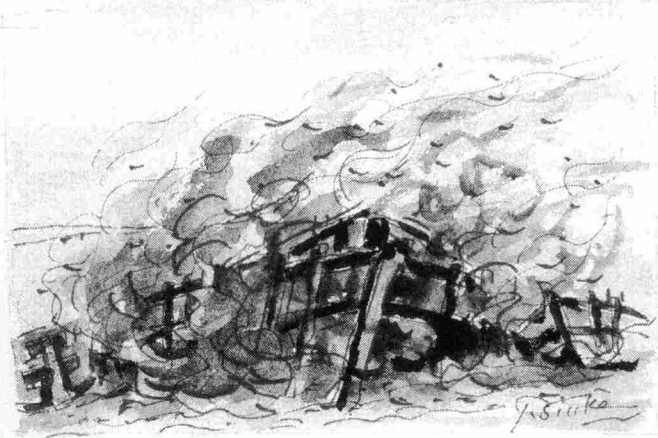
歴史の炎

とみ達の生活もはしけから陸上へと、神戸港湾の先取りをするかように、兵庫のアパートに馴れていった。港の近代化、コンテナ船による貨物の大量輸送、いずれ取り変わるであろう航空貨物便への移行。とみが女の人生を賭けるはしけの生活も、ゆきや海で生活する子供たちの水難事故の多発に、はしけで生活する母親たちの悩みが増していった。

神戸港における昭和三十五年八月の、はしけ船内居住率の調査の結果、神戸港船夫数九三九人、そのうち船内居住者五八九人、船内居住率六二・七％と発表された。その結果、日本政府によって、昭和四十年六月、港湾労働法が公布されて、同法第二十七条は「事業主は、その雇用する港湾労働者を、はしけに居住させないように努めなければならない」と規定した。

それを受けて神戸市は、神戸港湾福利厚生協会によって、国産波止場に、はしけ専用の住宅（国産波止場共同住宅）が建設された。

波止場共同住宅の住民は、はしけで働く人たちが主で、親会社がその住戸を買い上げはしけで働いた人たち、これからもその会社とかかわって行く人たちの杜宅というような形で入居することができた。とみ夫婦もちにこの共同住宅に入ることになるのだが、それはもつと後のことになる。



住民の七割は瀬戸内の出身者で、残りの三割は九州の出身者である。

共同住宅といっても出身地が同じということで、血縁関係が成り立っているといっても過言ではない。当時の共同住宅は海に隣接していた。現在の建物の北側は高速道路が走っているが、倉庫、運送会社が建ち並び、はしけ生活者は陸に上がったというだけで、そう環境の変化はなかった。はしけ生活の時は台風が来ると、沖引き船でつながらながら、岸壁から遠く離れて集落を作るのであった。

しかし船底には子供や妻が夫と運命を一緒にしながら、息をひそめて台風が過ぎるのを待っていたこともあった。はしけ労働者が普通のサラリーマンより高給取りだということも、いつ何が起きるかも知れない海上の生活、仕事が危険と隣り合わせということで納得できるのである。

昭和三十八年七月六日に生れた次男洋介は、はしけの子と呼んでいいのだろうか。茂、ゆき、二人の子供は乳呑児の時から船にゆられて育ったのだが、洋介は金子アパート、谷本アパートと神戸っ子として地上の生活の中で育てられた。

子供に共通していることは、とみの古里である佐柳島で出産したことで、本籍は佐柳島である。子供たちはそれぞれ、岬幼稚園、和田岬小学校、吉田中学、長田村野高校など、多くの友人を作りながら学生生活を送っていた。とみは思い出すのだった、PTAの役員をしていた時、先生から呼び出しがあった。洋介の制服の乱れを注意されたこと。誰もが一度は経験する男子学生の好奇心が、人より少しちがうことをして見たいという男心だったのかも知れない。そんな思いも作りながら、子供たちは両親に多くの心配をかけることもなく、大人への道を力強く成長していった。父や母の素朴で真面目な生き方、子供たちの心の底に母の大きな胸で飲んだ暖かい母乳の温もりは、確かに子供の心の隅に消えることなく残っている。

茂

ゆき

洋介

多くの人が経験することのない

海の家

波の音

キラキラ

船上の太陽にさらされた

小さな 小さな 白い服
父さんが いつもそばにいたね
おまえ達は 幸せ者
これから
お金を払っても経験出来ない
解の生活

チャブン
チャブン
木造船に打ち寄せる
海の子守唄
台風が来ても
お父さんの目が
お母さんの目が
おまえ達を守っていた
こわくても 息をひそめていても
家族は一つだったね
母さんは
おまえ達を産んだ
佐柳村の娘が
解の女になって

とみや子供たちの生活を神戸の街に馴染ませながら港の様子は一変していった。海上文化都市の誕生を願って昭和二十九年に東部、昭和四十一年にポートアイランド建設がスタート。これからの事業は背山の開発事業と一体となって進められた。山を削って海を埋める一方、土取跡地は鶴甲、渦森台、高倉台などのニュータウンを造成、山が海に動くというような感じを持たせた。その間昭和三十九年須磨ベルトコンベアーが完成。高倉台の土取りが本格化、土砂はベルトコンベアーで海岸へ、さらに船による海上運搬、高倉台団地の土肌が日に日に見えて来た。昭和四十一年四月防波護岸の工事に着手、昭和四十三年十月九日、クレーン船の上でポートアイランド起工式が行われた。

昭和四十三年に出された運輸政務審議会の答申を受け、国の一億五千万円の補助金を五大港で受け、約二万トンの買上を実施、廃棄すること始めた。国の買上は神戸の船主を動かし、さらにはしけ生活者の人生

を変えながら、黒煙の中にその言葉を封じ込めた。

メラメラ燃える炎よ

港の歴史を交えるんだね

その納得が

近代化という火柱となって

神戸港の空を赤く染めている

炎よ何を躊躇う

鼻をつく油の臭い

黒煙は足ぶみか

水先案内に命を預けた

木造船よ

おまえは これで死ぬんだね

俺のほほを伝う涙はなんだ

センチメンタルカ

それとも仲間のはげまし合った声か

炎よ 俺達しか知らない惜別の炎よ

何日も 何日も

日数を数えながら

船の重みを

何日も 何日も かけながら

一つの時代の終りを

俺の手の中のこぶしの中に

あつい炎を残しながら

燃えて

燃えて

焼け崩れて行く

造成という

海の上の人工島の沖で

歴史の炎となって



とみが佐柳島から夫順一に託したはしけ生活者の一つの歴史は確実に
終わろうとしていた。はしけ生活者は船会社の力関係や雇われていた条件
でさまざまな人生を生きることとなる。

国産住宅に移り住み会社の陸上の仕事をもらう人、退職しわずかの金



をもらって古里に帰る者、また神戸を捨て切れず、民間アパートに住み職を探す人、子供たちも親の運命と共にしけという特別な生活環境から一変するのであった。

とみの夫順一は自前の船を持っていたため、そのような同じ条件を持っていた仲間と、少なくともたはしけ運送の仕事をする事になり現在も続いている。ただ、はしけでの生活は福祉法からも禁じられていた。

昭和五十二年六月激変する神戸港を知らないまま、とみの母は、とみの兄の住む大阪の地で他界した。そして、ゆきは美しい娘として、十七才の時を迎えていた。母のようにはっきりとした働き者であった。そのせいもあってか、若くして二つ年上の青年とアルバイト先で知り合ったのを機に、とみ夫婦の納得の中、小さなアパートを借りて生活することになった。

昭和五十二年八月、母の初盆を兼ねて大川家の人たちは、にぎやかに佐柳島に集った。二つの墓は、とみの父を送った時と同じように、土葬と、海の波に洗われるように拝むだけの石が多くある墓とに分けられ、とみの母は佐柳の、ザブンという大きな波の音を聞きながら佐柳の土と波の中に永遠に返って行った。

高見 佐柳は

思い合うた島よ

(そうじゃいな そうじゃい・かけ声が入る)
中の小島が子じや孫じや

とみが初めて神戸から里帰りした父の新盆のときの盆踊りの唄を、母の新盆の島の中で、昔ほどの人気のない盆踊りの、トン トンと、ゆるやかに打たれる太鼓の音の中に、母の優しい声やぬくもりのないことを確認しながら聞いていた。

とみは静かに打ち寄せるお参りだけする形だけの墓の前で、和田家に嫁いだ姉と無言で手を合せていた。

ここで生れたのよね
ここでお母さんと遊んだのよね
私は神戸という街にいった
私は和田家に嫁いだ
母さん

ありがとう
 母さん
 ありがとう
 うどんを重箱に詰めて
 配ってくれたね
 子供を　タライの風呂に
 入れてくれたね
 魚で　味噌汁　作って
 くれたね
 水を井戸から汲んだね
 母さん
 ありがとう
 黄色い
 佐柳の土で育った花が
 母の　父の
 墓の前で
 ゆれてる
 とみと　和田家に嫁いだ
 姉の
 無言で合せる
 手の間に
 無言の言葉となって
 古里の墓前の前に広がって
 広がって
 広がって行く

昭和五十二年八月の盆は、とみがいずれ二本の足でこの地を踏めない
 悲劇を知らないように、とみを大きく大きく包んでいた。

つづく

先月号『神戸はしけの女―ゆれる―』の文中で、順一は毎日七〇万円
 近くのお金を、親戚筋から借りていた借り先に支払っていた。とあり
 ましたが、毎月七万円の誤りでした。訂正させていただきます。



岡本真穂（おかもと まほ）

詩人、関西文学同人、関西詩人協会会員、神戸異分野交
 流会会長。著書「詩画集　花野」「御影」。